

トラック輸送情報（平成17年8月分）

平成17年11月9日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：高橋、荒木、荒井 内線28315

直通：03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

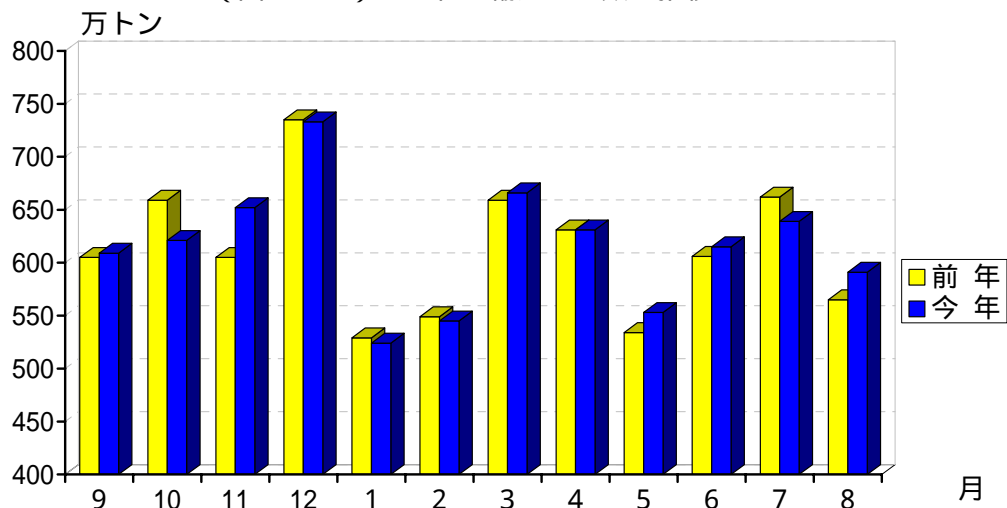
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、5,903,956トンで、前月と比べ、総輸送量が約49万トン減少したため、前月比92.3%（季節調整済み104.1%）、前年同月と比べ、約25万トン増加したため、前年同月比104.5%の実績であった。

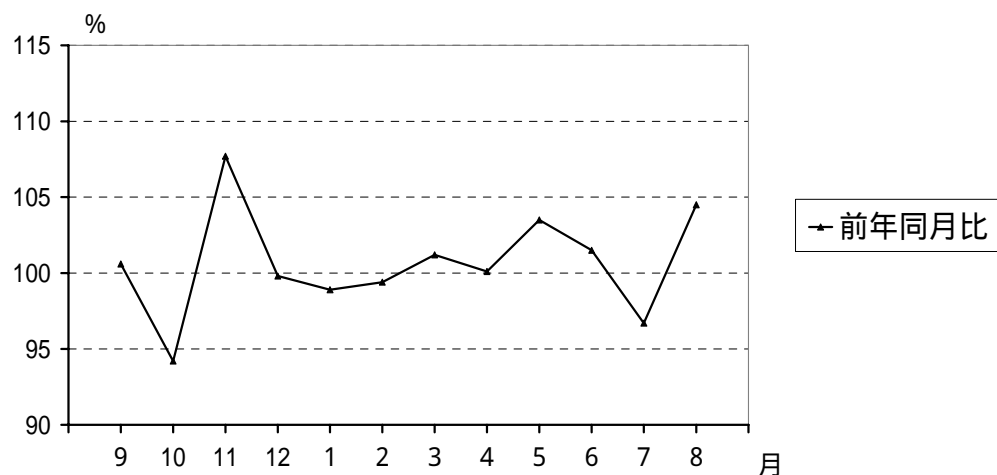
なお、平均稼働日数は24.1日で、前月と比べ0.4日の減少、前年同月と比べ0.7日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、244,977トンで、前月と比べ、約2万トン減少したため、前月比93.9%、前年同月と比べ、約4千トン増加したため、前年同月比101.5%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

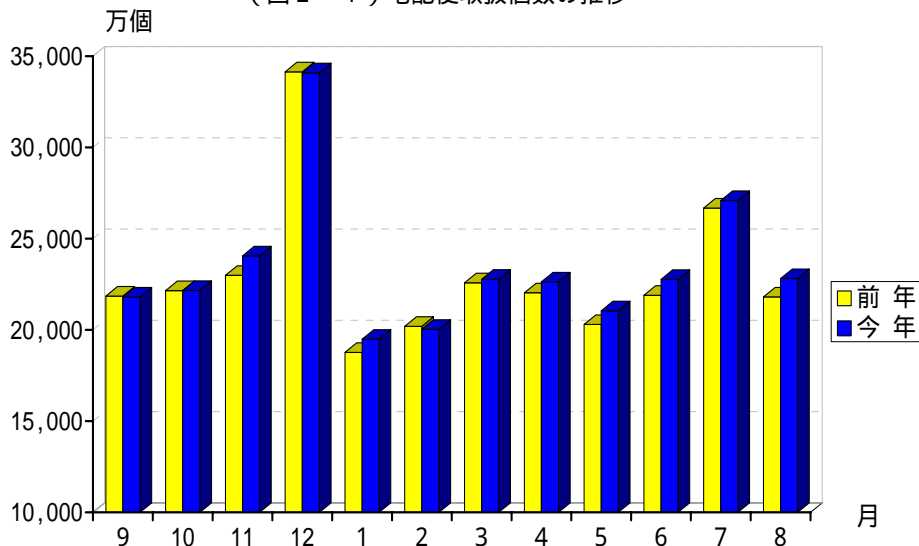


(2) 宅配便の概況

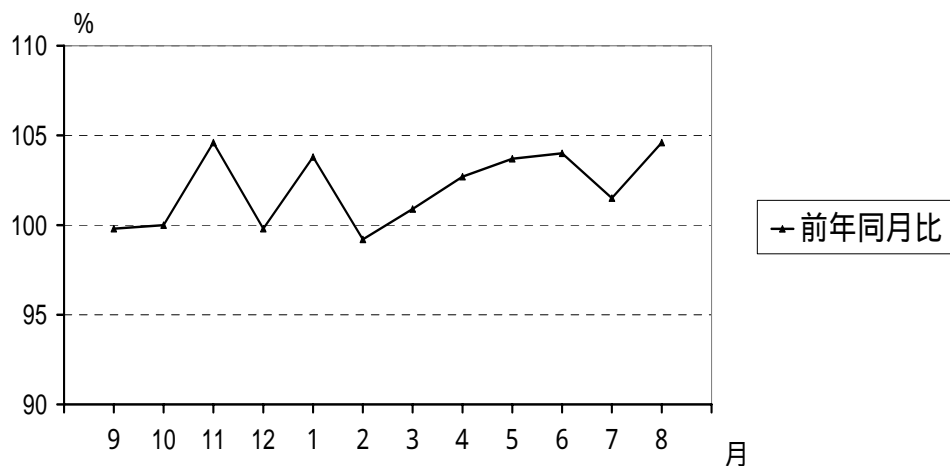
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、228,140 千個で、前月と比べ、約 4,273 万個減少したため、前月比 84.2% (季節調整済み 103.7%) 前年同月と比べると、約 1,008 万個増加したため、前年同月比 104.6%の実績であった。(図 2 - 1、図 2 - 2 参照)

(注)平成 17 年 2 月より調査対象のうちの 1 社が宅配便の扱いを中止したため、宅配便調査対象が 19 社となっている。なお、当該事業者の宅配便におけるシェアが小さく(平成 17 年 1 月で全宅配便個数の約 0.02%)、影響が小さいことから、前年同月比は 20 社のデータと比較している。

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、お中元期が終了したことやお盆休み等の影響によって、全般的に貨物量が減少した。理由としては、工場・生産地からの貨物減、倉庫から出る貨物減であった。また、その他(宅配便、百貨店配送品)においては、デパート・スーパーからの貨物減が見られた。地域的には、農水産品は東北、関東で、繊維工業品は関東で、食料工業品は東北で、それぞれ増加が見られた。一方、金属製品は北陸信越、機械は兵庫、化学工業品は大阪、食料工業品は関東、愛知、日用品は関東を中心に、それぞれ減少が見られた。また、その他(宅配貨物、百貨店配送品)においては、全国的に減少が見られた。

前年同月と比べると、金属製品、機械、化学工業品、食料工業品において、工場・生産地からの貨物増が見られた。また、食料工業品においては、倉庫から出る貨物増も見られた。地域的には、金属製品において中国、化学工業品において関東地区、大阪、中国を中心に増加が見られた。また、繊維工業品、食料工業品、日用品においては関東を中心に増加が見られた。一方、大幅な減少を示した品目はなかったことから、全体としては対前年同月比 104.6%となった。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因		
	著増	増	変らず	減					
前月に比べて	農水産品		2	11	2	2	東北、関東		
							野菜、青果物	4	
	金属製品			22	5		北陸信越、中部、大阪、福岡	4	
	機械	1	17	10			その他の機械、機械部品	兵庫ほか	4
	化学工業品		2	18	9		その他の化学工業品	関東、大阪	4、7
	繊維工業品		2	25	2		織物	関東	4
	食料工業品		3	18	6	1	飲料、加工食品	東北、関東	5
							飲料、加工食品	関東、愛知	4、7
	日用品		2	19	8		書籍・印刷物、その他の日用品	関東	
その他		1	19	6	2		神奈川、全国	2、8	
前年同月に比べて	農水産品		2	14	2				4
	金属製品	1	4	19	3			中国	4、9
	機械		10	16	1	1	その他の機械、機械部品	関東、近畿、中国、福岡	4
							機械部品		
	化学工業品		9	17	3		その他の化学工業品	神奈川、関東、大阪、中国	4、9
	繊維工業品		3	23	3			関東	4、9
	食料工業品		11	14	2	1	飲料、加工食品	関東、兵庫、中国	4、5、7
	日用品		5	20	3		その他の日用品	北海道、東京、関東	9
							書籍・印刷物、文具	関東、近畿	4
その他		4	21	3			関東		

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 842 社 / 調査対象事業者数 1,057 社）の輸送量は、前年同月比 101.8%、前月比 97.9%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	101.8%	101.2%	102.4%	100.8%	104.2%	104.1%	97.0%	103.7%	103.6%	106.4%	71.8%
前 月 比	97.9%	104.4%	96.4%	95.9%	100.3%	96.2%	95.2%	96.4%	98.6%	96.9%	68.6%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、お盆休み等により稼働日数が減少したものの、好天が続いたことから各種工事が順調に行われたため、「砂利・砂・石材」等の工事関連資材の輸送が増加した。また、コーン・馬鈴薯等の「野菜・果物」の収穫期を迎えたことにより輸送の増加がみられたことから、対前月比は 104.4%となった。対前年同月比も 101.2%となった。今後の輸送見通しは、工事関連資材の輸送量の維持が期待でき、次月及び以降とも増加傾向で推移するものと思われる。</p>
東北	<p>本月の輸送は、「野菜・果物」が収穫時期であったため増加したが、お盆休み等が稼働率に影響し、全体的に輸送量が減少した。このため、対前月比は 96.4%であった。対前年同月比は 102.4%であった。今後の輸送見通しは、稲作の収穫時期等があるため、次月及び以降とも増加傾向にあるものと思われる。</p>
関東	<p>本月の輸送は、お盆休み等により稼働日数が少なかったため、対前月比は 95.9%と減少した。対前年同月比は 100.8%であった。品目別で見ると、「機械」「紙・パルプ」「動植物性飼・肥料」等の増加が見られた一方、お中元期終了に伴い「取り合せ品」の減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、一部地域において、お盆休み等による輸送の減少がみられたものの、全体では、対前月比 100.3%とほぼ横ばいであった。品目別で見ると、「その他の石油製品」「砂利・砂・石材」に増加がみられ、「木材」「金属製品」に減少がみられた。対前年同月比は 104.2%であった。今後の輸送の見通しは、次月及び以降とも増加傾向にあると思われる。</p>
中部	<p>本月の輸送は、運送事業者及び荷主のお盆休み等により全体的に輸送量が減少したため、対前月比は 96.2%となった。対前年同月比は 104.1%と増加した。品目別で見ると、猛暑による飲料の需要増により「食料工業品」が増加したほか、「工業用非金属鉱物」等が増加した。一方で「その他の製造工業品」「金属製品」「紙・パルプ」に減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも増加傾向にあると思われる。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、お盆休み等により稼働日数が少なかったため、対前月比 95.2%であった。対前年同月比 97.0%であった。「食料工業品」はお中元配達を終了に伴い減少したのをはじめ、「機械」「非鉄金属」等が減少した。今後の見通しは、次月及び以降ともほぼ横ばい傾向にあると思われる。</p>
中国	<p>本月の輸送は、品目別にみると、「野菜・果物」はぶどう、なしの出荷時期を迎えたため増加し、「食料工業品」は飲料の輸送が増加している。「工業用非金属鉱物」「セメント」等も公共工事により増加しているが、全体では荷主・工場及び事業者のお盆休み等による稼働日数の減少により対前月比 96.4%と輸送量が減少した。対前年同月比は 103.7%であった。今後の見通しについては、次月及び以降とも増加傾向にあると思われる。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 98.6%、対前年同月比 103.6%であった。建設工事関連の需要増により「砂利・砂・石材」「鉄鋼」が、季節的需要増により「動植物性飼・肥料」が増加した。また、湯水の影響で飲料水などの「食料工業品」が増加した。一方、季節的需要減により「野菜・果物」「繊維工業品」が減少したのをはじめ、お盆休み等により全体的に輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともほぼ横ばい傾向にあると思われる。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 96.9%、対前年同月比 106.4%であった。「セメント」「砂利・砂・石材」が公共工事により増加したが、全体的には、荷主のお盆休み等による荷動きの鈍りがみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少の傾向が続くものと思われる。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、「その他の農産品（葉たばこ）」「食料工業品（ビール、飲料水）」の移入微増が見られたものの、「野菜・果物（ゴーヤー・マンゴー）」「紙・パルプ（段ボール）」「取り合せ品（引越貨物）」の輸送が減少した。季節的に台風の影響が強かったことから全体では、対前月比 68.6%、対前年同月比 71.8%となった。今後の見通しについては、次月及び以降とも増加傾向にあると思われる。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局										
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	2	1	0	1	1	0	0	1	2	0	8
	減	1	1	0	1	0	0	0	0	3	0	6
2. 野菜・果物	増	5	6	1	0	0	0	3	1	4	0	20
	減	0	1	0	1	0	1	0	2	4	1	10
3. その他の農産品	増	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
	減	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	4
4. 畜産品	増	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
5. 水産品	増	3	1	0	1	0	1	0	0	1	0	7
	減	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
6. 木材	増	1	1	1	0	0	0	1	0	1	0	5
	減	2	2	0	2	0	0	1	1	0	0	8
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	減	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
9. 金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
10. 砂利・砂・石材	増	12	1	0	2	0	0	0	1	5	0	21
	減	10	1	0	1	0	1	1	0	2	0	16
11. 工業用非金属鉱物	増	0	2	0	0	1	0	2	0	1	0	6
	減	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	3
12. 鉄鋼	増	2	0	0	1	0	0	0	2	3	0	8
	減	1	2	0	0	0	1	2	0	2	0	8
13. 非鉄金属	増	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	減	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
14. 金属製品	増	1	0	2	0	0	0	1	0	1	0	5
	減	0	2	1	2	2	0	0	0	3	0	10
15. 機械	増	1	0	3	1	0	2	0	1	0	0	8
	減	0	1	1	0	1	2	1	0	2	0	8
16. セメント	増	2	1	0	0	0	0	3	1	8	0	15
	減	1	4	0	1	2	1	0	2	2	0	13
17. その他の窯業品	増	0	1	0	2	0	0	1	1	0	0	5
	減	3	1	1	2	1	1	0	0	1	0	10

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸 信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増	0	0	0	1	0	0	0	1	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19. その他の石油製品	増	1	0	0	4	0	0	2	0	1	0	8
	減	0	1	0	1	1	1	1	0	1	0	6
20. コークス・ その他の石炭製品	増	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
21. 化学薬品	増	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
	減	0	2	0	1	1	0	1	0	0	0	5
22. 化学肥料	増	1	1	0	0	0	0	0	0	3	0	5
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
23. その他の化学工業品	増	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
	減	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	4
24. 紙・パルプ	増	2	0	3	0	0	0	1	1	1	0	8
	減	0	2	0	0	2	0	1	1	1	1	8
25. 繊維工業品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
26. 食料工業品	増	4	4	2	1	2	0	3	4	4	1	25
	減	0	3	0	1	0	3	1	2	5	0	15
27. 日用品	増	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	3
	減	2	0	0	0	1	2	0	0	1	0	6
28. その他の製造工業品	増	1	0	0	0	2	0	1	0	2	0	6
	減	0	2	0	0	3	0	1	2	2	0	10
29. 金属くず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
30. その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動植物性飼・肥料	増	3	0	3	0	0	0	0	3	3	0	12
	減	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	4
32. 廃棄物	増	1	0	1	1	0	0	2	0	1	0	6
	減	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	4
33. 輸送用容器	増	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3
	減	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
34. 取り合せ品	増	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	0	1	2	0	0	1	0	1	0	1	6
35. その他	増	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	減	0	0	1	0	1	0	2	1	0	0	5